

## 平成22年県民の日協賛行事参加報告

- 日 時 平成22年11月20日(金)  
■場 所 県立図書館館内  
■参加者 県立図書館協力員 13名 (五十音順・敬称略)
- 書庫開放 桑原、深澤、山縣、横内
  - 外国語の絵本の読み聞かせ 新井
  - ミニコンサート (一般参加として数名)
  - 図書館ツアー 浅川(玲)、有泉、松田  
(ツアー一般参加) 林(光)、古屋
  - アニマシオン 上野、寺田、日野原

### ○「書庫開放」と「ミニコンサート」

11月20日、晩秋とは思えないぽかぽか陽気の一日、県民の日協賛行事に参加。玄関ポーチには当日のイベント紹介のポスターが並び、来館者を歓迎してくれる。

「書庫開放」の午前中、3層(芸術・言語・文学)で入庫者カウントのお手伝いをする。入庫者のいない時間帯に書架の間を巡ってみる。いつかゆっくり開いて見たい画集や、思いがけない本に出会い、目的もなく書架を見るのは楽しい。

はがれ落ちそうな書庫シールや背表紙の破れを貼ったり、子どもの本を探している小学生の女の子を6層入口まで案内する。いつもの活動日とは違う、静かな書庫での2時間だった。

「ミニコンサート」(12:20~13:00)は、千須和真彩子さんら3人による二胡の演奏。

1階ロビーは新聞・雑誌や展示ケースの間にイスが置かれ演奏会場に早がわり。いつもと違う図書館の様子に入口で戸惑う人もいたが、たくさんのお客様でロビーは華やいた素敵空間となる。

演奏曲目は「シルクロード」「見上げてごらん夜の星を」「ふるさと」など、親しみやすい7曲。

二胡という楽器の説明や、沖縄の三線との違いなどもお話しくささり、お昼休みの楽しいひと時となった。

(協力員 資料整理分野 横内幸枝)

### ○「県民の日の行事に参加して」

午前中、書庫開放のお手伝いの後、残りの時間は一利用者として図書館の行事を楽しみました。

昼休みの時間には、二胡のコンサートを聴きました。繊細な音色を間近に聴くことができ本当に癒されるようでした。図書館は静粛にしていなければならない、という思い込みを打ち破り、新しい魅力を発信できたのではないかと思います。

コンサートの後、図書館職員と協力員による図書館ツアーに参加しました。毎週のように来てはいてもやはり知らないことばかりです。今年の大河ドラマ「龍馬伝」にまつわる小ネタをはさみつつ、隅々まで案内していただきとても勉強になりました。一部分を担当した協力員の案内は、声も話し方も落ち着いていてわかりやすく、心のこもった案内ぶりに感銘を受けました。

(協力員 資料整理分野 山縣仁美)

## ○『県民の日協賛行事』に参加（一部協力）して

11月20日は山梨県民の日。県立図書館でも、たくさんのイベントが催されました。

私がボランティアとして協力した企画は『本と親しむ図書館ツアー』。この日は9月2日、10月31日に続いて3回目の開催でしたが、参加者も増えにぎやかなツアーとなりました。

内容は、職員の方の解説を中心に、協力員が局部的に担当を決めて館内案内をお手伝いするというものです。実はこの企画を実現するにあたって、事前に職員の方にツアーを実演していただいたり、数回にわたって打ち合わせをしたりという経緯がありました。また、私たちに見えないところで企画振興担当の職員方が、知恵を出し時間を割いて下準備してくださったことと思います。

ツアーは正面玄関から始まり、外観を見て1階、2階、3階、4階、そして書庫へ。図書館の設備や置いてある本・資料の説明、場所によってはその歴史や美術品の解説なども交えながら、1時間20分という短い時間で館内を廻りました。私は『子ども室』を担当し簡単な案内をしたのですが、今回の体験で自身の図書館に関する知識や理解の浅さを実感しました。協力員としてもっと勉強していきたいところです。

この企画の他にも一日通してイベントが目白押しだったので、丸ごと楽しもうと午前中から館内をウロウロしていました。『外国語による絵本の読み聞かせ会』では英語や韓国語の読み聞かせを体験できました。韓国の言葉や習慣などを教えていただいたり、途中ゲームなどもしたりして楽しかったです。『図書館ミニコンサート』では、中国の民族衣装を纏った3名の二胡奏者の方々が、本格的な二胡の楽曲から近年のアニメ映画の挿入歌まで演奏され、その独特な音色を堪能しました。個人的にはとても楽しみにしていた『書庫開放』でしたが、他のイベントとの時間的な兼ね合いで、ゆっくり見ることができず心残りです。もっとも一日中開放していただいても、きっと時間は足りないと思うのですが…。

そして、この日の企画の中で最も印象に残ったものは『読書へのアニメーション』です。「アニメーションって何？」程度の興味でしたが、子どもたちの読む力を引き出すメソッドなのだから。会場に入ると大勢の高校生が一つの物語について討論していました。一部の生徒が登場人物になりきって、別の生徒からの質問に答えます。この一つ一つのやりとりが真剣で熱くて面白い。時に脱線するのですが、これもまた面白い。言葉では上手く言い表せないのが、機会があったら是非、参加・見学されることをお勧めします。

国民読書年におこなわれた『県民の日協賛行事』。あらためて本や図書館に接することが楽しい！と思えた一日でした。

(協力員 事業協力分野 有泉芹香)

## ○「盛り上がった高校生のアニメーション」

### 1 初めてのアニメーション

県立図書館において初めての試みとしてのアニメーションが実施されました。活字離れが心配される今日、従来の読書会とは異なった楽しい読書への誘いアプローチを実施することで、公共図書館として新しい読書支援を展開していこうとするものです。

アニメーションでは作品に迫っていく方法を「作戦」と呼び、いろいろな進め方があります。どのような人たちを対象とするか、作品は何にするかを決定し、それによって、どのような「作戦」にするのが良いかということを検討します。

アニメーションは幼児や小学生を対象としては既に実施されているようですが、今回は高校生を対象としています。また、作品は最近話題の村上春樹の著作で、主人公はじめ登場人物は高校生を中心として描かれた『沈黙』です。そして「作戦」はアニメーションの元祖マリア・モンセラ・サルトの著作『75

の作戦』の中から「彼を弁護します」という作戦を選びました。参加者が「登場人物」と「読者」に分かれて、質疑応答していくというものです。「読者」はそれぞれの「登場人物」に「何故そういう行動をとったのか」を質問します。それに対して、登場人物役の人は作品の中から自分の行動を説明している箇所を探し出して答えます。この「作戦」では質問するのにもまた答えとなる根拠を探し出すのにも、作品を読まなければならないというものです。このようにアニメーションは「創造的遊び」に基づいた教育方法で、ゲーム感覚で本に触れ親しむことから読書に入っていきます。

参加者は、作品に書かれているところを根拠として説明することを守れば、あとは自由に発言できます。どのような答えも否定しないで、互いに自分とは異なる他の人の意見を聞くことで、読み方を深め読書力の向上に繋がっていくことを目指しています。

## 2 初対面の高校生たちの意見交換

アニメーションには、甲府市内及び周辺の6校17名の高校生が参加してくれました。ほとんどは初めてのアニメーションでしたのに、よく質問し答えていました。県立図書館長清水澄先生のアニメードール(アニメーションの進行役)が緊張を和らげるような雰囲気づくりに配慮されていたことも功を奏したと思いますが、周囲では大勢の大人たちが見つめる中、互いに初対面なのによく発言していました。しかも高校生らしい視点から、作品のポイントを捉えての質問や説明もあり、感心しました。

アニメーションでは質問とそれに答えての説明を繰り返しますので、質問も説明もどちらも誰かが発言しないと場が白けてしまいます。でもそんなことは全く無く、むしろもう少し時間があつたら、もっと多くの意見が聞けたのではないかと思えるほどでした。

そして、参加している高校生たちは、とても楽しそうに見えました。最後の感想でも有意義だったと述べていましたが、自分一人で読んでいる時には気付かなかったことに気付かされ、また一つの作品、一つの事柄について一緒に考えることの楽しさを味わったことが伝わってきました。

## 3 次にに向けて

アニメーションの楽しい経験が更なる読書へと繋がっていくとしたら、それこそがアニメーションの目指すところであり、この試みを継続していく意味があると思います。

新図書館でのより充実した図書館活動、読書支援に繋げていくために、効果的なアニメーションの実施に向けて、館長始め司書の皆さんも、日々たいへんな御苦勞を続けておられます。協力員も微力ではありますが、お手伝いできるよう勉強しなければと改めて思います。

(協力員 読書支援分野 寺田幸子)